

経営のヒント151 名伯楽

本田宗一郎と藤沢武夫の比較

藤沢武夫氏の著書「経営に終わりはない」の一説で、本田と藤沢の比較をしている。

本田技研の経営を担ったのは私でした。
それは会社のなかで知らない人はほとんどなかったでしょう。(中略)
だからといって、それならば私に務まるかといえば、それは無理です。
社長には、むしろ欠点が必要なのです。
欠点があるから魅力がある。
つきあっていて、自分のほうが勝ちだと思ったとき、相手に親近感を持つ。
理詰めのものではだめなんですね。
あの人には、それがあります。
欠点があるから他人から好かれないかといえば、あれだけ人に好かれる人もめずらしい。(中略)
私のほうが欠点は少ないでしょう。
だが、そのぶん魅力がない。
だから、社長業は落第です。」

私は戦前から、だれかをとっつかまえて、いっしょに組んで自分の思い通りの人生をやってみたいと思っていました。その場合には、私はお金をつくって物を売る。(中略)
大きな夢を持っている人の、その夢を実現する橋がつくれればいい」

劇画「ゴルゴ13」でこんなやり取りがありました。
そこには一人のギャングのボスとその右腕が登場していた。
ボスは女にだらしくレースなところも多くてやや頼りない。
右腕は頭も度胸もよく、銃の腕もあり、取り巻きから「あんたがボスになったらいいじゃないか」とそそのかされる。すると右腕が「おれは筋を通しすぎるから、ボスの器じゃないんだ」
ボスには仕事の力だけではなく、人を引き付ける懐の広さがあるんだな。

人生で成功するには、良き相棒が必要です。
それぞれの長所と短所が補い合う関係が理想の姿ですね。
私も「中小企業の参謀」というコンセプトで、自分自身の役目役割を考えております。
いつかは、「名伯楽」「名参謀」と言われるようになりたいものです。
社長、経営トップには……何か「人間的な魅力」が必要なのですね。

<経営のヒント>

社長には魅力が必要。
魅力とは「この人のためだったら、何かをしてあげたい」というような気にさせるものがあることです。
人が動くことは、5つあるといいます。
一番強烈なものは、「恐怖」です。
次が「利害損得」になります。
そして「自己実現」理念、これは自ら喜んでやります。
最後が「自己犠牲」になります。
この「自己犠牲」が、「この人の為……ならば……仕方ないな!」と思わせる人間的な魅力です。
人間的な魅力はEQ(感性)です。どこか「ぬけている」「だらしなさ」「面白い」「楽しい」ものですね。